

# 教科等研究会（小・中学校書写部会）

## 令和4年度 研究活動のまとめ

### 1 研究テーマ

書くことに意欲と喜びが持てる書写指導の在り方  
～自ら気づき、高め、楽しんで日常生活に役立てる実践を求めて～

### 2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回			第5回		
6 / 17	13 名	嘉島 西小	8 / 17	広安 西小	オンライン講話 及び実技研修 東京書籍指導部	10 / 21	御船 中	事前研 近藤秀平教諭 (御船中)	11 / 25	御船 中	授業研 近藤秀平教諭 (御船中) (中止)	2 / 3	嘉島 西小	実践報告会

### 3 研究の概要

#### (1) 研究の内容

昨年度までの研究をさらに進めていくために、今年度も引き続き同じテーマとし、サブテーマを日常生活につなげるものとした。

授業において、学習課題を明確化し、ポイントをつかんで練習ができるようにすることで、児童生徒はその時間の課題を達成し、文字が上達していく。その達成感により、それぞれが自分の書いた文字に自信が持てるようになると思う（「分かる・できる」）。そして、その自信が「書くことに意欲が持てる」ことにつながっていくと考える（「楽しい」）。

「自ら気づき、高め」とは、児童生徒が試書→気づく→練習→清書→評価という学習活動の中で、試書と手本の文字を比較し、学習課題を達成するために必要な改善点に自ら気づき、考えるとともに、自分自身の課題も意識して練習し、より良い文字となるような作品作りに取り組むことと考える。「楽しんで日常生活に役立てる」とは、書写の学習で学んだことを自分のものとして、各教科の学習や生活の様々な場面（模造紙へのまとめや手紙、書き初め等）だけでなく、日々の文字を書く様々な場面で意識しながら積極的に生かす態度を育成することだと考える。

実技研修は、会員の希望や意見を聞き、取り組むことにしている。昨年度までも各会員の実践を共有したり、授業づくりや書写指導のアイデアを出し合ったりしてきたので、今年度はさらなるICTの活用を図るべく、東京書籍本社の川村編集長と長谷川さんを講師として、デジタル教科書の活用について教科書編集の立場からオンライン講話をいただき、質疑応答・協議を行った。

研究授業は、小学校と中学校が毎年交互に担当し、相互の立場から意見交換する形で研究を進めている。しかし、小学校と中学校では、ねらいや授業内容がそれぞれ異なるため、1回の授業研究会では実践力の向上を図ることが難しい。そこで、年度末に、一人一人の授業実践を発表し意見交換を行う実践報告会を行った。多くの実践例を持ち寄ることで、小・中学校の連携を図るとともに、書写の楽しさや喜びを味わわせる活動の工夫や、技術を高めるための指導法やICT活用、日常生活へどうつなげていくか等、会員どうしで共有できると考える。

#### (2) 成果と課題

実技研修では、東京書籍編「改訂版 書写指導の基本のキ」をテキストとして、書写指導における現状や課題、小学1・2年生での水書の指導の実際、教科書に掲載されている「書写のかぎ」の活用、デジタル教科書や指導書付属DVD-ROMの有効な利用法等について、教科書編集の立場からの話を聞いた。書写の学習において児童生徒がよりわかりやすく学べるように、指導者がより効率よく効果的に指導できるように様々な工夫が教科書や指導書でなされていることを改めて知ることができた。



質疑応答をはさみながら学校現場での現状を伝える中で、行書の指導について話題が及んだ。書写で行書を学びながら、生活や他教科の学習の場面ではなぜ楷書で書くことを求められるのかという中学生の素朴な疑問について、「読みやすく速く書ける」という行書の特徴やよさについての意見や、日本の文化であるという面から理解させていきたいという意見が出され、小中両方の教科書を見比べながら、小学校から中学校へ、楷書の学習から行書の学習への無理のないつなぎを今後どのようにしていくとよいか、教科書編集の立場と小・中の指導者の立場の両方が一緒

になって考え、意見交換ができたことが大変有意義であった。

参加者からは「隅々までこだわって教科書が作成されていることや、書写指導が苦手な教師でもうまく指導できる工夫がなされていることが改めてわかった」「毛筆指導に動画を有効に活用する方法を知り、自信のない教師にとってはありがたい」「教科書について、まだ使いこなせていなかった『まとめ』『書写テスト』などを授業で活用したい」「ひとり一人の子どもたちが、より整った文字を書きたい、きれいに書けるようになったと感じられるような授業を作っていきたい」「生活に活かす書写を念頭において教科書が作られていることを改めて強く感じたので、



児童生徒が自分の思いをしたためたり、自分の心を見つめたりすることを大切にして『生活につなげる』ことにこだわって授業を組み立てていきたい」といった感想が聞かれ、参加者にとって、2学期以降の授業改善や指導の工夫へ意欲が高まるような有意義な研修となった。

#### 4 実践事例

##### (1) 授業の概要

※ 研究授業は実施できなかったため、事前研究会で検討した内容を記す。

《事前研究会で協議した内容》

- 書くことに意欲と喜びを持たせる手立てとしてのICTの活用
  - ・文字・文章を電子黒板上で拡大したり中心線をずらしたり揃えたりしながら、読みやすい文字・文章のポイントに気づかせることができるのではないかな。
- 学びを日常生活に役立てるための「相手意識を持って書く」という視点
  - ・本時で確認する「読みやすい文字・文章のポイント」を、最終的に作品集に仕上げるとき、様々な人にとって読みやすいものにするために生かすということを、十分理解させたい。
  - ・「相手を読みやすいように書く」「読み手のことを考えて書く」という意識を高めるために、読みやすいものと読みにくいものの比較を取り入れたい。読みにくいものの例として、教師が書いたものを見せると、生徒の興味・関心が高まるのではないかな。
  - ・本時は、「読みやすい字のポイント」として、文字の中心、字間、文字の大きさ（漢字とひらがなのバランス）をそろえることの3点にしばって書かせるが、文字そのもののバランスも考えて書くと、人から見て読みやすい文字になることも、どこかで確認したい。
  - ・国語科書写の役割として、ひらがなの成り立ちの重要性についても、授業の中で触れたい。

##### (2) 学習構想案

#### 中学校第1学年 国語科書写 学習構想案

日時 令和4年11月25日（金）第5校時

場所 1年3組教室

指導者 教諭 近藤 秀平

##### 1 単元構想

単元名	書いて味わおう「竹取物語」		
単元の目標	(1)楷書の特徴を捉え、漢字と仮名文字のバランスなど、調和の取れた字を書くことができる。〔知識及び技能〕(3)エ (2)読み手の立場に立って、読みやすい字の大きさや、楷書の形、漢字と仮名文字のバランスについて考え、他者と共有することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)ア (3)古典を書いて味わい、文字文化や文学作品への関心を高めることができる。〔学びに向かう力、人間性等〕		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	楷書の特徴を捉え、漢字と仮名文字のバランスなど調和の取れた字を書くことができる。(3)エ	「書くこと」において、読み手の立場に立って、読みやすい字の大きさや、楷書の形、漢字と仮名文字のバランスについて考え、他者と共有することができる。(B(1)エ)	古典を書いて味わい、文化や文学作品への関心を高めるとともに、積極的に他者へ発信している。
<b>単元終了時の生徒の姿</b>			
文字文化や文学作品を級友に紹介するために、楷書の特徴や漢字と仮名文字のバランスについて考え実践し、相手が読みやすい文を書こうとする生徒			

単元を通した学習課題		本単元で働かせる見方・考え方	
級友にお勧めの本を紹介する『文学作品冒頭集』を作ろう。		楷書の字形、漢字と仮名文字の調和や字間、行の中心を意識して書くことを通して、読み手のことを考えて字を書く意識を高めている。	
指導計画と評価計画（4時間取扱い 本時1 / 4）			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
見通す	1 (本時)	○単元を通した学習課題について理解し、『文学作品冒頭集』を作るという見通しを持つ。 ○教科書の「竹取物語」冒頭部分を例として、相手が読みやすい文や字のポイントを考える。	【態①】（ワークシート①） 【思①】（ワークシート①）
挑戦する	2	○前時のポイントを確認し「竹取物語」の冒頭部分を視写する。 ○相互評価を行い、もらったアドバイスをもとに視写を行う。	★【知①】（ワークシート②） ○確認した「相手が読みやすい字のポイント」を押さえて視写している【思①】（ワークシート②） ○読み手が読みやすい字かという視点に立って、友だちの字や文に対して適切にアドバイスを送ることができている。
		○自分がお薦めしたい文学作品の冒頭部分を書く。 ○グループで相互評価して、アドバイスや感想を言い合い、交流を行う。	★【態①】（ワークシート②） ○『文学作品冒頭集』を作成するために、自分興味がある文学作品について積極的に発信している。
ふり返る	1	○学級で作品をワールドカフェ方式で共有し、交流する。 ○身に付けた力を振り返る。	★【態①】（ワークシート③） ○友だちの書いた文学作品の冒頭を読み、読書への関心を高めている。

## 2 単元における系統及び生徒の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)	
中学校学習指導要領第1学年	〔知識及び技能〕(3) 我が国の言語文化に関する事項 エ 〔思考力、判断力、表現力等〕「B 書くこと」ア, エ
教材・題材の価値	
本教材では、中1国語で学習する『竹取物語』の冒頭部分や、自分がお薦めしたい文学作品・古典作品の冒頭部分を視写し、『文学作品冒頭集』を作る。『竹取物語』の視写を通して相手が読みやすい文字について考え、実践することで、きれいな文字を書くための知識・技能や相手意識を持って字を書くという考え方を身に付けさせ、日常生活でも相手意識を持って字を書く習慣を身に付けさせることができる。また、自分のお薦めの本や有名な文学作品を紹介することで、今後の読書活動の幅を広げていくことにもつながる。	
本単元における系統	
中1年「楷書の書き方」・点画の書き方と字形の整え方 ・文字の大きさと配列 書いて味わおう「竹取物語」	中1年「行書の書き方」・行書を書くときの動き ・点画の連続 ・点画の変化
中2年 書いて味わおう「平家物語」	
生徒の実態（単元の目標につながる学びの実態） 在籍38人中35人回答	
《本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況》 読みやすい字や文章を書くためには何が大切だと思うか。	○とめ・はね・はらい ○字のバランス(字形) ○ゆっくり書く(丁寧)等
《意識の状況》書写の学習は日常生活の中で役に立つと思うか。	約82%
《意識の状況》自分が書く字は読みやすいと思うか。	約42%
<b>■考察</b> 日常的に書く文字を読みやすく書けている生徒もいれば、そうではない生徒もいたり、習熟度はまちまちである。事前アンケートから、書写の学習内容は日常生活に役に立つと思う(約8割)が、自分の書く字は読みやすいと思えない割合が約6割おり、学習したことを日常生活での書字に生かされていない生徒が多いことが分かる。 また、「読みやすい字や文章を書くために大切なこと」として様々な回答が得られたが、「とめ・はね・はらい」「字のバランス(字形)」「ゆっくり書く(丁寧)」と答えた生徒が多かったことから、文章全体のバランス等よりも一文字に焦点を当てて考えている生徒が多いことが分かる。	

### 3 指導に当たっての留意点

- 『文学作品冒頭集』を作ることを伝え、書くことに楽しみと意欲を持たせるようにする。
- 文字の大きさや漢字とかなのバランス、字間等を「ポイント」として絞って指導し、何を意識して練習するのかを明確にすることで、「書けた」と自信が持てるようにして、書くことへの意欲と喜びにつなげるようにする。
- 相互評価を取り入れることで、改善点に気づき、互いにさらに高めていけるようにする。
- 常に「相手意識」を持たせる手立てをとり、相手が読みやすい字を日常でも書こうという意識につなげる。

### 4 本時の学習

(1) 目標 『文学作品冒頭集』を作成するという見通しを持つとともに、相手が読みやすい字の特徴について考え、読みやすい字のポイントとしてまとめることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等) ◎ICT活用場面
導入	5分	1 学習の目標を確認する。 ① 様々な文学作品の冒頭を読み、文学作品当てクイズをする。 ◇これは習った!「飛べ かもめ」だ。 ②単元を通した学習課題を確認する。	○有名作品や教科書掲載作品をクイズで出し、文学作品への興味を高めるようにする。 ○最終的に学級で作品集を作ることを伝え、様々な人に読まれるので、相手が読みやすい字で書く必要があることを意識させる。
<b>【めあて】教科書の字と比較して、読みやすい文章のポイントを見つけることができる。</b>			
展開	30分	2 目標の達成に向けて活動する。 ①「竹取物語」の冒頭部分を書く。 ◇字を丁寧に書こう。 ◇とめ、はね、はらいを意識しよう。 ◇字と字の間が狭すぎたり広すぎたりしないようにしよう。 ②教師が書いた冒頭部分を読み、直すべき点を探す。 ③班で出た意見を全体で共有する。 <b>【期待される学びの姿】</b> 教科書と読みにくい字で書かれた「竹取物語」とを比較して分かったことをもとに、読みやすい文字のポイントを具体的に見つけている。	○読みにくい例として、字間や文字の大きさがバラバラだったり、中心線がずれていたりするものを用意する。 ○拡大掲示した『竹取物語』の冒頭文に線を引いたり書き込みをしたりしながら共有する。 ○電子黒板上で中心線をずらすように文字を動かしたり、文字の大きさを拡大縮小したりしながら、読みやすい文字のポイントについて確認する。
<b>【具体の評価規準】観点【技①】</b> ○教材を比較し、読みやすい文字のポイントを見つけてまとめることができている。 (方法：ワークシート)			
<b>【到達していない生徒への手立て】</b> ○班活動や全体発表を通して共有する。 ○教材を比較しつつ、ヒントを出す。			
終末	15分	3 まとめと振り返りをする。  <b>【まとめ】読みやすい字のポイントは、「①中心線をそろえること ②字間をそろえること ③漢字より平仮名を小さく書くこと」である。</b> ①「読みやすい字」のポイントを踏まえて、『竹取物語』冒頭部分を書く。 ②ペアで確認して相互評価を行う。 ◇ポイント②を意識できているね! ◇ポイント①がもう少しかな。	○全てを意識して書くことが難しい生徒には、特に意識するポイントを選択させる。 ○実生活でも相手意識を持って字を書くよう話してまとめ、学習したことを生かそうとする態度につなげる。

#### 【板書計画】

<p style="text-align: right;">まとめ</p> <p>読みやすい字のポイントは、①中心線をそろえること ②字間をそろえること ③漢字より平仮名を小さく書くことである。</p>	<p>読みにくい『竹取物語』</p>	<p>教科書の『竹取物語』</p>	<p>めあて 教科書と比較して、読みやすい文章のポイントを見つけることができる。</p> <p>書いて味わおう『竹取物語』</p>
---	--------------------	-------------------	---